

新型コロナウイルスが大変なことになっています。観光事業も大打撃ですが、東京マラソンの一般枠の出場取り消しなど大きなイベントにも軒並み影響。そして日本にとつての世紀のイベント「東京オリンピック」は7月後半開幕なので大丈夫だろうとは思いつつも、何となく不安というか盛り上がりがないのが皆様との共通の思いかと。

ところで今から17年前の2003年SARS（重症急性呼吸器症候群）が大流行し、世界を震撼させたのを覚えていらつしやるでしょうか。当時は息子が10歳で調布にあるアメリカンスクールの小学校に通っていました。

バブル崩壊以降経済の低迷が続く東京に比べ、当時の上海やシンガポールの経済は破竹の勢い。将来を見据えてもアジアのヘッドクォーターを東京に置き続けることは間違っているという考えが主流で、まだ公表はされていませんでしたが、海外のオフィスが日本から次々と出て行く算段になっていました。アメリカンスクールにいると駐在員の移動の話聞くことでアメリカが今後どういう方針で世界経済を進めていこうとしているかが、どんな経済誌よりも先にわかるのです。

日本のアメリカンスクール自体も今後駐在員の激減で経営をどうしていくか考えあぐねていた時にSARS流行が起こったのです。

新型コロナウイルスから思ったこと

文 朝倉匠子

text by Shoko Asakura

あの時は幸運にも日本の水際作戦は完璧で、WHOが流行期と規定した2002年3月〜2003年7月に日本での確認例は一件も報告されないまま終息宣言が出されました。

これは在日の外国人企業家族に大きな安心と衛生、健康管理における日本への信頼度を飛躍的に高めました。

そのことがヘッドクォーターを海外に移転させるのを踏み止めさせたのです。

SARSの流行がなければ、あの時点で多くの外国企業が日本を離れて行ったことを知っている人はほとんどいないと思います。災い転じて福となす。まさにそれでした。

けれども今回のコロナウイルスには完敗状態。SARSの成功体験がかえって裏目に出た？ 驕れるものは久からず。いざれにしても最小限の被害に止めるよう皆で一致団結ですね。



サイバーダイニング会議室で山海社長と

Profile

青山学院大学文学部英米文学科卒業
学生時代よりモデルとして活躍、その後テレビ司会、経済インタビューなどメディアで活躍し、渡米。カリフォルニア大学で「NPO マネジメント」及び「ジェロントロジー（加齢学）」を学び、帰国後「エイジングスペシャリスト」として活動を再開。アメリカでの学問を基に健康で幸せに年齢を積み重ねていく「アクティブエイジング」を提唱している。2002年スイスのオメガ社より社会に貢献する女性として緒方貞子氏、黒柳徹子氏、吉永小百合氏らと共に「オメガ賞」を受賞。現在NPO法人アンチエイジングネットワーク理事、母校青山学院大学ジェロントロジー研究所研究員、ヴォーカルグループ「The Fujiyama Sisters」リーダーと多岐の分野で活躍中。

